# 市史編さんの窓 (11)

## 坂口安吾の本籍は大安寺に

日本の近代文学史上に独特な軌跡を残した坂口安吾には、今も多くの愛読者がいます。惜しいかな、作家としては働き盛りの四十九歳（昭和三十年）でこの世を去りましたが、坂口安吾の本籍は、新津市大安寺五〇九番地にあります。

安吾は、明治三十九年十月二十日、新潟市西大畑町に生まれました。父は政治家、漢詩人として有名な坂口仁一郎（五峰）です。その十二番目の子として生まれ、本名を炳吾といいました。

仁一郎は新津市に生まれ育ちましたが、安吾は本籍があるだけです。新津へは、兵隊検査やお墓参りの時に来たぐらいでしょう。新潟市には、護国神社へ行くところの小高い松林に「ふるさとは語ることなし　安吾」の碑がありますが。しかし当市にはお墓があるだけで、安吾に関わりのあるものは何もありません。

安吾が眠る坂口家の墓所

安吾の祖――坂口家は、約三百年前に加賀から新関地区の金屋へ移住してきました。そこから分家した津右衛門が大安寺に居を構え、さらにそこから分家した友伯を初代とする家が安吾の祖先です。坂口家は代代蓄財に才能を発揮したほか、文人としての才能にも恵まれていたようで、安吾はその系統を引き継いでいるようです。

坂口家は本家、分家とも豪農として栄え、「阿賀野川の水が涸れても津右衛門どんの財産だけは涸れない」といわれた程の大資産家でした。しかし、明治維新の頃、藩に貸した金が回収できなかったり、いろいろな思惑が外れて没落したようです。安吾家の方も本家と肩を並べる大地主でした。旧阿賀小学校がその屋敷跡です。安吾の祖父――得七は阿賀浦村の村長を務めましたが、その頃から資産が傾き、父仁一郎の代に新潟へ移りました。

昭和二年頃から小説を書き始めた安吾は、昭和三十年に亡くなるまでの間に、多くの小説やエッセーを残しました。また、人間的にもさまざまなエピソードを残しています。逝きて二十八年、安吾は大安寺の畑中の松籟の下に静かに眠っています。

**訂正**　四月十五日号掲載の記事中、新発田藩の蔵が〝女池付近〟とあるのは〝沼垂〟の誤りです。船主が女池屋でしたので訂正しておわびします。

## 国民年金保険料を忘れずに納めよう

国民年金保険料の納め忘れ（未納）は、年金の受給権を脅かす大敵です。保険料の未納が続くと老後の支えである老齢年金だけでなく、万一のときの生活保障として支給される障害年金や母子年金などが受けられないこともあります。

また未納にしていた保険料をあとから納める場合、毎年引き上げられる月々の保険料と未納保険料を一緒に納めることになり、経済負担も大きくなります。無理のない納入を心掛けるとともに、老後や万一のときに確実に年金が受けられるよう、保険料は納期限までにキチンと納めましょう。

**ハイキングで自然を満喫**

4月29日、秋葉山遊歩道で市民ハイキングが行われました。参加されたのは、幼児からお年寄りまでの65名。

新緑のまぶしい遊歩道で、野鳥のさえずりを聞きながら、さわやかな汗を流し、自然との触れ合いを楽しみました。

## 一般市民を対象に 初級英会話講座を開きます

先号でもお知らせしましたが、視聴覚センターでは、次のように「市民初級英会話講座」を開きます。内容は実用的な日常英会話です。ふるってご参加ください。

□とき…六月九日から八月までの毎週木曜日の午後七時～九時
□ところ…視聴覚センター三階第一演習室
□募集人員…三十人（定員になりしだい締め切ります）
□対象…一般市民（学生を除きます）
□経費…千円（テキスト代）
□講師…本間厳氏（新津高校教諭）
□申し込み…五月二十八日までに視聴覚センター（☎2―〇二〇一）へ

お買物、ご用命は市内で

室内装飾・美術表装・襖・壁・額
表具 つしま
一級技能士 訓練指導員 鈴木正義　本町3 ☎2-2035

市役所前 靴のイザワ
靴なら 何でも揃うイザワ
＊あるく楽しさをお届けする――＊
TEL 20625